

平成26年度 事業報告

岡山理科大学専門学校

建築と動物そして魚のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様へ支持され愛される学校を目指します。



学生一人ひとりの能力を引き出し、社会で即戦力として活躍出来る職業人の育成のために、全教職員が一丸となって教育・指導に当たりました。また、職業実践専門課程

の認可を文部科学大臣より受けました。

1. 専門職業に係る業界・団体のニーズに応えるために、教育課程の編成や実技教育の進化に取り組みました。その具現化として前年度後半より建築、動物看護そしてアクアリウム学科3学科に外郭の有識者を入れた教育課程編成委員会を組織し、多くの進歩的な意見を聴取し、今後の教育課程編成に取り入れることにしました。

2. 学生・保護者の学校に対する満足度を把握するために、保護者アンケートを実施し、教職員が教育実践の参考にしました。

3. 自校の実践的な職業教育にかかる活動等を評価する学校評価を行い、学校運営の改善に活かしました。

4. 教育の質の改善や社会に対する説明責任、学校評価を通じたガバナンス改善に向けて、学校関係者評価委員会を組織しました。年度当初には前年度の学校運営に対する意見と評価を聴取し、学校評価とともに学校関係者評価の結果を公開しました。

5. 学生・教職員の施設・設備や研修に対する要望の一部を実現しました。

岡山理科大学専門学校 校長 村岡 正

教育の充実

■社会に認められる学校づくり

実践的な職業教育等を目的とした自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図りました。

文部科学省が推奨する専門学校のあるべき方向性を真摯に受け止めて、本校の繁栄を図る努力を行いました。

■トリミング学科

入学志願者が漸減の一途を辿るトリミング学科において、ペットケアにおける産業・業界のトリマーに対する厳しい注文に応えられるよう、スタッフ組織の再編を行い、高度技術と知識・教養を具えた人材の育成に努めましたが、定員充足には至りませんでした。

■動物看護学科

「動物看護職統一認定機構」のコアカリキュラムを誠実に取り入れるために、必要経費増抑止の維持に努めながら、教育課程編成とその教授の適正化を図りました。動物看護師試験の合格は87%でした。

また3年制課程においては動物看護師の制度化に伴う看護師の公的資格化とともに、現在の動物医療界における高度医療への要望、食品メーカーや大動

物分野等の小動物病院以外への職域の拡大、人と動物の関係を担う福祉分野のニーズにも対応できる人材の養成に務めました。

■長期履修制度

平成26年度から長期履修制度を導入しましたが、年々この制度を利用する入学者が増加してきており、効果があることを確認しました。

研究の充実

■産官学連携の教育

平成21年度より、真庭市と包括教育協定を締結したことを契機に、前年度には平成22年度に実施しました「温泉」をキーワードに「温泉入浴の動物に対する効果」の研究結果を発表しました。今後研究成果と共に、「温泉街の活性化プラン」や「温泉水温を利用した好適環境水による養魚の研究」など産官学連携の在り方を提案しております。数年来の継続として、「動物の温浴効果実験」を健康機器企業と共同で行い、認証結果を報告しました。

行政・関連団体が開催するそれぞれの動物愛護フェスティバルに積極的に関与・参加し、動物愛護啓蒙運動に参画し、県獣医師会や動物愛護団体より感謝されています。

また、平成26年度獣医療学会岡山大会において、本校教員並びに学生が応援スタッフとして活躍し、謝辞を受けました。

学生支援

■修学支援

チューター並びにサブチューターを中心とした教職員が学生個々を把握し、専門技術の習得はもとより、学生とのコミュニケーションを密にとり学習意欲の維持、メンタル面のサポート、就職活動の啓蒙等から満足度の高い学生生活のサポートに取組みました。学生に対して専門教育の重要性、青年期の

精神面や思考等について特別講義を行い、学生には好評を得ました。今後も継続していきます。

■生活支援

・カウンセラーの配属

カウンセラーを定期的に迎え入れ、悩みを抱えた学生の心の問題解決にあたりました。

■進路支援

・就職活動支援

1年次12月の段階での進路希望調査書を基に1月より第一希望の分野を決定していきます。動物系においても一般企業を希望する学生は2月より直ちに就職活動を開始させ、満足度の高い企業への就職を目指すよう指導しました。

また、学生の就職意識啓蒙と就職相談の充実を図るため、就職支援会議を定期的に開催し、就職課と各学科長との連絡・協力を図りました。

関係事業所への訪問、就職先の開拓に努めました。

就職活動ガイダンス

1年生	4月	キャリア教育講座
	9月	進路選択支援講座
	11月	インターンシップ実践講座
	2月	就職活動講座
2年生	4月	履歴書、面接指導
	6月	職業理解と労働法規講座
	7月	内定礼状の書き方指導

・キャリア教育

これまでの課外時間（5時限）を利用した就職ガイダンスに加えて、ホームルームの時間を利用したクラス単位での就職ミニガイダンスを随時実施し、きめ細かい就職活動支援を行う機会を設けました。また、早期に就業意欲の喚起を図り、就職率がアップしました。

社会連携・社会貢献

■地元小・中学校、県内外の高等学校との連携

小中学校並びに高等学校における課題研究や総合的学習の時間の活用に、本校の教育施設や内容、研究成果等を提供し、公教育としての立場のPRに繋げることができました。

■地域との交流

地域社会に愛され、育まれ、地域と共に教育活動を展開すべく、学生に地域の行事への積極的参加を促しました。特に、バス停に設置するベンチを町内会の方々に学生がプレゼンテーションを行い、町内会との意見交換により、満足できるベンチを創作しました。近く寄贈することになっています。

学生の受入

■資料請求者リストの精査

進学情報誌や進学情報サイトを通じて入手出来る資料請求者リストは年々増加傾向にあります。その後のオープンキャンパスや受験への数には大きな変化は見受けられません。

この請求数の増加は情報サイトの増加・便利化により広範囲かつ複数の請求が容易に行えるようになったものと考えます。

しかしながら本校は一部の学科を除き、地元からの進学者を中心に広報展開していく必要があります。情報サイトの活用を行いながらもより質の高い資料請求者リストの確保が迫られております。

このため、独自サイトからの請求者に対しては密接なアプローチを行い、年間通じてのオープンキャンパス参加者は増加に繋がりました。

■就職情報の活用

専門学校においてはより高い就職実績が求められ、その就職実績の情報においては高校の現場などでは関心が高いものと推測されます。このことから在校

生の就職活動の成果をリアルタイムに出身高校に報告し、進路指導のタイミングにより多くの就職実績を伝えられるよう就職課と情報の共有を行い発信できる仕組みを実施いたします。このことにより、従来訪問できなかった高校に対しても情報の発信が出来るようになり、入学実績校への積極的なアプローチになりました。

■社会人の受験生増加を図る

18歳人口の減少により社会人の受験生を各学科において増加させることに力を入れました。

専門学校の強みでもある資格取得と高い就職率をアピールし、既卒者の再入学を促し、入学者414名の内33名が既卒者などの社会人が在籍しました。

内部質保証

■自己点検、自己評価 FD・SD

専任教員並びに教育補助職員の自己啓発と教育職業意識さらにモラルを上げる目的で、自己点検評価を一昨年に続いて行いました。また各人の組織に対する帰属意識を啓蒙するための研修等を実施し、相互の共通理解と意思の疎通に効果を得ました。

その他の取組

■コスト意識

人件費（特に非常勤講師料の単価の公平・適正化による）削減、教育・研究用消耗品については優先順位を定め、経費の適正な配分と有効活用を促進し、さらに全教職員に対し合理化、光熱水費節約について周知徹底を行いました。その結果、黒字決算となりました。

■職業実践課程の認定

職業実践専門課程は、専門学校（専修学校専門課程）のうち、企業などとの密接な連携により、最新

の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むものを文部科学大臣が認定する制度です。文部科学大臣が認定し、奨励することで、専門学校における職業教育の水準の維持・向上を行っていくことを目的としています。職業実践専門課程は、文部科学省が定めたすべての要件を満たしてはじめて認定されるものです。主な条件は以下の通りです。

1. 企業などが参画する「教育課程編成委員会」を設置して、カリキュラムの編成を行っている。
2. 企業などと連携して、演習・実習などの授業を行っている。
3. 企業などと連携して、最新の実務や指導力を習得するための教員研修を実施している。
4. 企業など学校に関係する外部委員が参画し、学校の評価を行っている（学校関係者評価）。
5. 学校のカリキュラムや教職員について、HPで情報提供を行っている。

以上の要件を全て満たした本校の建築学科（昼間部）動物看護学科及びアクアリウム学科において、平成27年2月に認定の報を得ました。

主な行事

4月8日	入学式
4月11日	授業開始
6月18日	球技大会
7月18日 ～8月24日	夏季休暇
9月8日 ～12日	前期末試験
9月29日	後期授業開始
12月24日 ～1月7日	冬期休暇
2月27日 ～2月2日	後期末試験
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	47	80	74
	建築学科(夜間部)	20	16	40	27
	福祉住環境デザイン学科 (募集停止)		—	—	—
	計	60	63	120	101
商業実務 専門課程	映像情報学科 (募集停止)		—	—	—
	計 (募集停止)		0	0	0
文化・教養 専門課程	動物看護学科 3年制	30	15	90	48
	〃 2年制	20	30	40	56
	トリミング学科	40	19	80	49
	ドッグトレーニング学科	40	30	80	64
	アクアリウム学科	40	36	80	74
	計	170	130	370	291
合計		230	193	490	392
専攻科	建築学科専攻科	10	6	10	6
研究科	動物系総合学科研究科	10	15	10	15

(単位：人)

■卒業者数等一覧

(平成26年度)

区分	卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	200	161	156	97%	26	24	1	3

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成26年4月1日現在）

(単位：人)

主な就職先	岡山県庁、岡山市役所、(株)あい設計岡山支社、(株)荒木組、蜂谷工業(株)、イオンペット(株)、京都中央動物病院、倉吉動物医療センター・山根動物病院、(社福)兵庫盲導犬協会、アグチペットショップ、ペットショップヤマモト(4店舗)、(公財)岡山県動物愛護財団、ペットワールドアミーゴ(2店舗)、(株)海遊館、太子町立くじらの博物館、岡山中央魚市(株)(岡山市中央卸売市場)、その他118社
-------	---

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	0	11	12	11

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度 26年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	338,213	357,320
補助金収入	252	181
その他収入	5,960	6,729
帰属収入合計	344,424	364,230
基本金組入額合計	△ 906	△ 4,307
消費収入の部合計	343,518	359,923
人件費	216,322	221,201
教育研究経費	72,254	74,007
管理経費	26,346	29,984
その他支出	2,010	1,303
消費支出の部合計	316,932	326,495

■施設設備整備計画

(単位：千円)

事業名	金額
第1校舎1階非常勤講師控え室兼会議室への改修工事一式	1,500
第1校舎1階製図室の製図台2台増	300
第3校舎1階トリミング室給湯設備一式	1,100